

# 園児にもタブレット

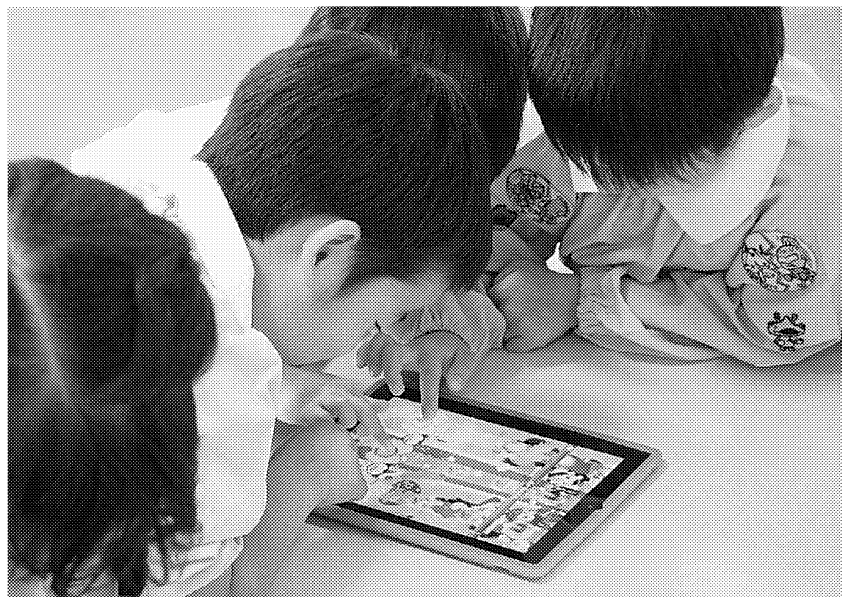
小学校の授業で活用が進むタブレット（多機能端末）が、幼児教育の現場にも普及し始めた。最新の機能を使い、音楽演奏や絵画などを学ぶ子供たち。「幼い時期からデジタル機器との適切な付き合い方を身につけてほしい」。幼稚園や自治体は企業や大学と連携し、効果的なカリキュラムや教育アプリの開発を急いでいる。

## 画面に興味津々

東京都福生市の聖愛幼稚園。園児らが輪を作ってiPad（アイパッド）の音楽アプリの画面をのぞき込む。音に合わせて打楽器の絵が付いたアイコンをタップし、「合奏」を楽しむと、子供たちの間に笑顔が広がった。

同幼稚園は4月、教育アプリ開発会社のスマートエデュケーション（東京・品川）と共同で年長組（5〜6歳）向けのカリキュラムを試験的に導入。1回30〜40分の授業を月に2度実施する。

## アプリ使って演奏・お絵描き…



タブレットを使う園児ら（東京都福生市の聖愛幼稚園）

能を使って様々な角度から撮影するよう指導する。幼児の場合、通常は真横から見た絵を描きがちだが、画像を参考にすることで、多面的な絵を描けるようになるという。

同園は2012年から遊び時間に使える遊具としてタブレットを取り入れており、その後、教材としても活用できないか、同社と具体的な方法を話し合ってきた。

野口哲也園長は「タブレ

## 適切な付き合い方探る

自治体による導入の動きもある。岐阜県大垣市では昨年度、市がiPad30台を購入。市内6カ所の幼稚園や保育園に貸し出し、5歳児を対象に知育アプリなどを使わせた。大学と共同で効果を検証し、16年度までに市内の全27園に広げる予定という。

同市では最近、小学校の入学時点で、ひらがなの習得レベルが児童によって大きく異なることが問題になった。このため、正しい文字や文の書き方をゲーム形式で学ぶ独自の教材アプリの開発を進めており、今年度中の利用開始を目指している。

### 「20分以上ダメ」

導入当初、市民の間からは「あまりに幼いころからデジタル機器に触れさせると、依存を助長するのではないか」との意見も出たが、市担当者は「デジタル機器が年々身近になっていくからこそ、幼少期から適切な付き合い方を学ぶ必要がある」と説明。園児らは「20分以上使わない」「ほかの子供と譲り合って使

う」といった使用にあたっての注意点も併せて指導している。

長野県で幼稚園や保育園21カ所を運営する学校法人、信学会も12年から、傘下の各園に専任の指導者を派遣。タブレットを取り入れたひらがなの指導を続けている。字をなぞるアプリでは書き順通りに書けると色に変化するため、子供がゲーム感覚で学べる効果があるという。

幼児教育の現場で広がるタブレット活用の動きには、企業も敏感に反応。0〜6歳児用の通信教育で約100万人の会員を持つベネッセコーポレーションは今年4月、幼稚園や保護者などの会員向けに、英語の発音を練習するアプリや、生きものの生態を学ぶために動物園の様子を生中継する授業の動画などを配信するサービスを始めた。

同社は「外出先などで教材を使いたいというニーズが多い。保護者の6割がスマホやタブレットを持っており、会員の3〜4割の利用を見込んでいる」（広報担当者）としている。

## 保護者の6割「抵抗感」

ベネッセ教育総合研究所が昨年、首都圏に住む6カ月から6歳までの子供の保護者約3200人にアンケートしたところ、68%の保護者が、タブレットについて「抵抗感がある」と回答した。

スマートフォン（スマホ）や

テレビなどを含めたデジタルメディアを使うことに対し、気がかりな点（複数回答）として挙げたのは「視力の低下」（92%）がトップ。「長時間の使用」（91%）や「大きくなってからの依存」（74%）などが続いた。学習系のアプリを使ううえで

## 知育面には期待 民間調べ

のメリットに関しては「知識が豊かになる」（81%）や「歌や踊りを楽しめる」（77%）、「作る、描くなどの表現力を高める」（68%）など回答。一方、デメリットとして55%が「受動的になる」ことを挙げた。同研究所は「保護者の間では新しいメディアに対し、懸念と期待の両方が混在しているようだ」と分析している。